

放射線工学部会企画セッション

福島原発事故後 10 年間の放射線工学分野における活動と今後の展望

Activities in the field of radiation engineering for 10 years after the 1F accident and future prospects

(4) 議論

(4) Discussion

(座長) 佐藤 優樹¹¹原子力機構 廃炉環境国際共同研究センター

2011年3月に発生した東日本大震災に起因する東京電力福島第一原子力発電所(1F)事故から、今年で10年が経過した。その間、1Fサイト内では除染・フェーシング等の実施により、構内の殆どが一般作業服で作業できるエリア(Gゾーン)となり、防護装備の軽減化が達成されている。その一方で、原子炉建屋内を含む高線量率エリアにおける放射能分布測定の効率化や、炉心からの燃料デブリ取り出し及び継続して発生する汚染水の処理・処分等、廃炉に向けた課題は数多く残されている。

本セッションでは、「福島原発事故後 10 年間の放射線工学分野における活動と今後の展望」というテーマで、廃炉作業の現状及び関連した計測・遮蔽分野の研究開発に関する講演 3 件を設けるとともに、これらを総括して議論する時間を併せて設ける。

議論では、東電 HD 高平史郎氏から、今後の廃炉作業における課題・対応方針を踏まえたニーズをご提示いただくとともに、福島大 鳥居建男氏、KEK 平山英夫氏より、放射線の強度分布を可視化してマッピングする放射線イメージングに関するこれまでの研究開発事例、ならびに放射線遮蔽の知見を活用することによる Cs-137 の沈着量推定についてご紹介いただく。併せて、本セッションの参加者とともに、産学官が有する放射線計測ならびに遮蔽に関する技術について、どのように廃炉作業に適用可能であるかについて、今後の展望を交えて議論を実施したい。

* Yuki Sato¹

¹Japan Atomic Energy Agency (JAEA)